

東北大学大学院情報科学研究科 「シンポジウム開催支援」報告	
タイトル	第16回知能ロボットコンテスト・フェスティバル 並びに人との親和を目指すロボット技術に関するワークショップ
主催者	ロボット競技会実行委員会 代表：中野栄二
期日	2004年6月26日～6月27日(2日間)
会場	仙台市科学館
出席者数	2日間合計 約3,000人
講師・パネリスト等の氏名・勤務先等	氏名 柳原 好孝氏 (東急建設株式会社)、 先川原 正浩氏 (千葉工業大学)
目的	近未来の家庭内にロボットが入って来ることは確実視されており、そのときに問題になるだろうと思われるのが、ロボットの人への親和性である。また、様々な作業現場においてもロボット技術の導入は進むと予想される。このようにロボットと人との関わりにおいて、人がロボットから受ける印象やロボットと人とのインタラクティブな親近感は、新しいロボット技術の目標の一つであり、本情報科学研究科の目指すところとも合致する。また、知能ロボットコンテスト・フェスティバルも回を重ねるにつれ、出場者の関心の一つが「ロボットのパフォーマンスや外観が人に与える印象」にあるため、よりロボット工学と心理学の連携を深めることができる。
内容	ロボットと人との親和性など、人とロボットとの関わり観の観点から、ヒューマノイドロボットや福祉ロボット技術を研究開発している研究者及び建築に伴う屋内作業に関するロボット支援技術の開発やヒューマノイドロボットによる建設機械のオペレーションの研究を行っている研究者に話題提供をお願いし、これらの話題に関連して、専門家を中心として討論を行った。
情報科学研究科にとっての意義・貢献度	知能ロボットコンテスト・フェスティバルに参加することによって、多くの青少年たちが楽しみながらロボット製作に取り組み、ロボット技術に関する知識や技術を深めることができた。また、この参加者たちの関心の一つが「ロボットのパフォーマンスや外観が人に与える印象」にあり、人がロボットから受ける印象やロボットと人とのインタラクティブな親近感についての研究につながると思われる。このような人とロボットの関係は本情報科学研究科の目指すところとも一致しており、今後の研究の発展に貢献できたことと思われる。